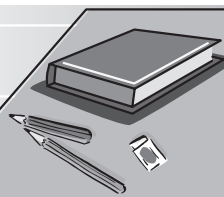


学生時代と図書館 92

「9回裏と18回裏に何かが起こる」

福井直秀



私には、このコーナーはまわってこないと思っていました。なぜなら、私が学生時代に図書館との関わりが出来たのは、学部の卒業直前という、野球で言えば9回裏だからです。そのことをこの雑誌の編集者はきっと見抜いていたと思うのです。

本を扱うと超能力が発達するのではないか、というのが私の体験から来る「理論」なのですが。

それまで本は、ほとんど自分で買って読んでいたからです。という、大金持ちだったのか、実は読むことを怠っていたのか、となりますね。ブー、両方はずれです。私は、本にはいっぱい自分なりのコメントを書き込んでいたからです。生意気盛りで、著者にいろいろ突っ込みを入れていました。もし、今読んだら恥ずかしくて冷汗54リットル（古典では「冷汗三斗」ですが、私はメートル法で育ったので）でしょうが。

学部時代の9回裏、大学院入試のため論文を書かなくてはならなくなりました。私は、日本の近代思想史を研究しようと思っていたので、原典を読むという作業を始めました。それらの本は、農学部の図書室に多くありました。当時農学部には「農業経済」という講座があり、そこが戦前の好景気の時に大量に本を買ったとのことでした。私のいた本部構内から農学部は離れていて、事前申し込みした本が午後3時に届くという方式でしたが、おおいに活用させてもらうことになりました。そう簡単に手に入るものではなかった本ばかりが身近にあり、きわめてラッキーでした。

その後、延長戦ともいべき大学院に入ったので、それからは図書館との長い付き合いとなりました。農学部図書室はもちろん、最大の所

蔵数を誇る国立国会図書館にもよく通いました。とにかく、京都にいることは資料を集めるという意味ではかなりのハンディだった時代なので、研究者の知り合いのついで、図書館員を紹介してもらって便宜を図ってもらったりしながら（当時はのんびりしていたので。もう時効です）。

当時の図書館の今の最大の違いは、1冊の本を探すことの大変さです。すでに探した本から同一の著者の著作を探すのは一番簡単で、見当をつけて探すことが出来なくなってくると、国会図書館の膨大なカード目録を1枚ずつ繰りながら探すのです。そんなわけで、図書館は実際本を読む時間よりも、探す時間の方が多かったような気がします。そのような制約の中で書くことを組み立てていかねばなりません。これはこれで論理的に考えねばならないことを教えてくれましたが。

さて、延長18回の裏、試合終了となる直前、思わぬことになりました。本を借りた図書館に通っていたのですが、そこで全然別のモノをゲットしました。そう、皆さんも図書館では、本を借りるだけでなく、思わぬモノも手に入るようになるかもしれません。是非、利用してください。

え？さっきのモノはなんだって？モノ、モノと言っても、そのモノは「article」ではありません。言葉を慎みましょう。そのモノは、今、隣で笑っています。

ところで、最初に、本を扱うと超能力が発達すると言ったのはなぜか、読者はここにきて気付かれたと思います。私はいつも、隣の人に私が考える「変な事」を見抜かれているからです。

ふくい なおひで（教授・教育学、笑い、日本近代思想）